業務部速報

No. 50
発行 25. 9. 25
JR東労組 業務部

申4号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する申し入れ 9月25日 第3回団体交渉を行う！

【組織の見直し】

■主な組合主張　□主な会社回答

9．地域総合職への移行に伴い、入社済の組合員を県単位による運用に移行することについて丁寧に説明し、組合員の理解を得たうえで、本人希望を把握し実現すること。

■回答に必要により社員の希望を把握とあるが、必要によりとは何か。 ■日々のコミュニケーションは重要である。基本的な考えは自己申告書の面談か。	□県単位をベースに採用をするため、運用も県単位とする。そのため、社員の希望を把握する必要はある。 □自己申告書の面談は重要であるが、社員の把握はそれに限らない。日々のコミュニケーションが重要である。
■県単位運用について、「希望地に戻れるのか」「希望が叶うのか」の不安の声が多く届いている。	□異動は不安が伴う。解消できるように努力していきたい。
■「働きがい」「働きやすさ」を求めるにあたって、通勤も踏まえた生活基盤・生活設計を踏まえることも必要である。 ■県跨ぎの異動希望者には生活実態・生活設計を踏まえて最大限配慮して頂きたい。	□異動は任用の基準で行う。希望に全て沿えるものではない。一方、家庭等の環境など社員の都合もあるため、配慮は必要である。諸々の要素を総合的に勘案する。 □希望を優先すると業務が回らず本末転倒となる。
■今いる社員の希望が実現することが重要だ。	□採用は厳しい。必ず 10 年、15 年で県単位運用が完遂すると言えない。今後、県単位に持っていく事は言える。
■新幹線統括本部内には「県ベースの採用を希望する」声が多くある。本人希望を把握した中で、最大限希望を実現する形をとるべきではないか。 ■希望の把握はしていただきたい。	□新幹線統括本部の設計思想はエリアでなく、仕事の種類だ。在来線の考えを新幹線に当てはめるのは無理だ。 □事業本部だけでなく、新幹線統括本部も異動に関する考えは同様である。希望把握、自己申告書もやっていく。
■希望は様々ある中で、納得感は重要である。なぜ叶わないのかも社員に伝えることが重要である。 ■エンゲージメント高めるには納得感が重要だ。叶わない理由を伝えることが納得感に必要である。	□どこまで本人に事情を言えるかは難しい問題だ。 □日々の 1on1 ミーティングや自己申告書の面談等、会話する中で伝えればいいが、言えること言えないことはある。ただ努力は必要である。

11．ＪＲ本体とグループ会社間の人事交流は、要員対策や委託を目的としないこと。

■要員対策が目的にはならないか	□結果的に要員対策になることはあるが、趣旨はビジネス間のシナジー効果である。要員需給目的にやることは今までもない。

本部ー本社間の「組織の見直し」の議論スケジュールが９月末となっているが、「調整中」で議論出来ない項目があるため、地方提案を遅らせることを議論する！

■提案時、組織の再編は地方提案があるため９月末までとあったが調整中で議論が進んでいない項目がある。地方提案が 10 月上旬とあるが、遅らせるべきだ。 ■本部本社で議論し、整理し、地方提案を行う事は良いか。 ■９月末の整理は不可能ではないか ■労使で認識合わせ地方協議の期間を引き直すべきだ。 ■地方提案できないなら、修正提案となるのではないか。	□１０月何日までと明言できないが、会社としても鋭意調整をし、考え方含めて示し、議論を再開したい。 □そのようなことが前提となるのは変わらない。 □９月に項目終了は厳しいことは認識している。 □地方議論で提案内容に直接影響するものはないが、支障がないから地方提案スタートとはならない。 □スケジュールは見通しとして示すもの。労使の議論によって変化が生じるもの。修正は馴染まない。